

2017年度 公認スキー準指導員検定会 理論 解答用紙 No.1

岡山県スキー連盟 主管

ヒッポNo.	氏名

得点
/200

問題1

① 先達	② 自覚	③ 誇り	④ 普及発展
⑤ 2	⑥ 修了	⑦ 優先的	⑧ 未修了
⑨ 翌年度	⑩ 喪失	⑪ 体面	⑫ 年次登録料

問題2

① キ	② エ	③ ウ	④ ケ	⑤ カ
-----	-----	-----	-----	-----

問題3

<p>○コミュニケーション能力を身につけ、プレーヤーのやる気と自立心を育てるためのサポートをする。</p> <p>○スポーツマンシップとフェアプレイに代表されるマナー、エチケットなど道徳的規範を身につけさせるためのサポートをする。</p> <p>○プレーヤーが明確な目標を設定できるようにサポートする。</p> <p>○スポーツとの出会いをコーディネートする。</p> <p>○スポーツを継続できるようにサポートする。</p> <p>○スポーツ仲間をつくるためのサポートをする。</p> <p>○快適なスポーツライフを構築するための方法や内容についてのサポートをする。</p> <p>○長期一貫指導システムの理念と方法を理解し、個々の年齢、技能、要求に合ったその年代における最適な指導を行なう。</p> <p>○メディカル・コンディショニングスタッフ、マネジメントスタッフなどと協力し、プレーヤーに対し最適な環境を提供する。</p> <p>○自ら研鑽に努め社会に評価される指導者を目指す。</p>
--

問題4

① 個々の学習者	② 情熱	③ 真剣	④ 信頼関係
⑤ 支援者	⑥ 明るい	⑦ 名前	⑧ 性格的
⑨ 言葉遣い	⑩ 公平	⑪ 平等	⑫ 意欲的

問題5

ダウンヒル	スラローム	ジャイアントスラローム
スーパーG	コンバインド競技	団体競技

問題6

① 上方	② 距離	③ 端	④ パトロール
⑤ 停止	⑥ 徐行	⑦ 流れ止め	⑧ 呼吸
⑨ ツリーウェル			

ヒブNo.	氏名

問題7

(1)	① 腕	② 膝	③ 山										
(2) ア	① E	② G	③ B	④ J	⑤ A	⑥ K	⑦ F	⑧ I	⑨ C	⑩ H	⑪ D		
(2) イ	B												
(2) ウ	① 手がかり	② 感覚的	③ 肯定的	④ 否定的									
	⑤ 原因	⑥ 矯正的	⑦ 的確	⑧ 運動感覚									
	⑨ 直後												
(3)	① 迎え角	② くの字姿勢	③ 心理的										
(4)	① エッジング	② 回旋	③ 荷重										
(5)	静的内傾維持												

問題8

(1)	① 横滑りの展開	② 滑走ブルーク	③ シュテムターン	④ エッジング								
	⑤ 回旋	⑥ 外スキー	⑦ 両スキー	⑧ 急斜面								
	⑨ スtockワーク											
(2)	① キ	② ク	③ オ	④ エ	⑤ ア	⑥ イ	⑦ カ	⑧ ウ				

問題9

(1)	「基礎パラレルターン」はスキーを平行に保ち連続ターンをすることで、「パラレルターン」はいかなる状況にも対応できるターンのことである。											
(2)	① ケ	② シ	③ ア	④ ク	⑤ ウ	⑥ エ	⑦ イ	⑧ コ	⑨ キ	⑩ サ	⑪ ス	⑫ カ
	⑬ オ											
(a)	ターン中スキーの進行方向より外側に身体が向いていること											
(b)	ターンポジション時に下肢の傾きに対し上体を外側に傾けること											

問題10

(1)	岡山県スキー連盟	(2)	国際スノースポーツ指導者連盟 (IVSI)	(3)	全身持久力	(4)	講習禁止
(5)	バックカントリー	(6)	0.6℃	(7)	S-B-Bシステム		

ヒッポNo.	氏名

問題11

【評価の観点】

●学習目標（めあて）

単なる技術的な目標だけではなく、指導の本質である、楽しさ、面白さ、喜び、価値といった究極の目的を意識した学習目標が記されているか。

●指導上留意すべき点

日本スキー教程，日本スキー教程（安全編），及び指導者理論の内容を踏まえた記述になっているか。

（例）○モチベーションを喚起させる学習指導を導入しているか

- ・学習の「めあて（技術的な課題）」や「学習活動の方法」を具体的に理解させる
- ・学習者のレベルに応じた技術課題、克服課題を持たせる
- ・効果的な賞罰の与え方を考える

○ジュニアスキーの指導の原則（中学生期）を理解しているか

- ・束縛や制限をできるだけ少なくして、自発的な学習意欲を喚起する
- ・ルールやマナーなど大事なことは徹底して守らせる
- ・自尊心が強くなる時期なので、叱責や注意をする場合には十分に配慮する
誉めるときは人前で、叱るときは本人だけに伝える
言い訳は認めたくなくて、指導者としての助言を伝え納得させる
- ・中学生がよいと考える指導者の理解
権威や能力の高さではなく、自分たちの言い分に耳を傾ける人、気持ちを理解してくれる人

○性差によるスキー指導の方法を理解しているか

- ・体力差（男子3に対し、女性は2）
- ・一般的には女性は男性に比べ、神経質、社会的依存、防衛的傾向が強い
- ・指導者との情緒的な関わりが強く、指導者の好き嫌いが練習の態度や成果を大きく左右する

○適切な評価方法を理解しているか

- ・学習者への動機づけや意欲化のための評価が行われているか（効果的なフィードバック）

○スキーヤーの「基本的注意義務」「滑走時の義務」「禁止行為」などを理解させる指導

○ジュニアスキーヤーの安全対策を理解しているか

- ・統計によると10代前半のジュニア層と50歳以上のシニア層に事故が多いことの理解
- ・個々の技能、性格、動機（やる気）、体力などの把握
- ・日常とは異なる筋群の使用による疲労への対応（ストレッチやマッサージの取り入れ）
- ・用具の正しい装着や厚着による汗かき、ゴーグルを曇らせるなどの危険因子の排除
- ・紫外線から目や肌を守る指導

○冬山の気象を理解しているか

- ・気温、風、地吹雪、霧、雪崩など

○自然との関わり方を理解させようとしているか

- ・自然における行動の仕方を理解させる、自然に親しむ能力と態度の育成、豊かな心の育成 など